

世界におけるフロリデーションの現状

現在、世界中で4億人以上がフロリデーションの恩恵を受けています。そのうち少なくとも3億5000万人が浄水場でフッ化物濃度を調整した水道水を利用し、5000万人以上が天然の適正濃度の水道水を利用しています。フロリデーションを実施している国は、オーストラリア、ニュージーランド、米国、カナダ、イギリス、アイルランド、スペイン、イスラエル、ブラジル、チリ、アルゼンチン、コロンビア、中国香港行政区、韓国、シンガポール、マレーシアなど約60か国です。

米国ではフロリデーションの普及拡大が今も継続

米国は1945年に世界で初めてフロリデーションを実施した国です。フッ化物濃度が適正に調整されている地域の人口は、1992年の62.1%から2000年には65.0%と増加し、2008年には72.4%、1億9500万人となっています。そのうち約800万人は天然の適正濃度の水道水を利用しています。現在、フロリデーションは、米国の50大都市のうち47都市で実施されています。また、人口100万人以上の都市は、すべてフロリデーションが実施されています。

水道水以外でフロリデーションを実施する方法

スイス、フランス、オーストリア、ドイツ、ハンガリー、スロバキア、ベラルーシなど、多くのヨーロッパ諸国でフッ化物添加食塩が広く利用されています。中央アメリカ諸国および南アメリカ諸国でも、フッ化物添加食塩は広く使用されています。

口腔保健とフッ化物利用についての情報を詳しく知りたい方は
下記のホームページをご覧ください。

厚生労働省ホームページ「e-ヘルスネット」歯の健康

<http://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/teeth/h-01-005.html>

e-ヘルスネットは、厚生労働省が一般の方を対象に正しい健康情報をわかりやすく提供するために開設したサイトです。

日本歯科医師会ホームページ テーマパーク8020『口腔保健とフッ化物の応用』

<http://www.jda.or.jp/park/prevent/index05.html>

水道水フロリデーション、フッ化物洗口、フッ化物配合歯磨剤、フッ化物歯面塗布など、フッ化物利用全般について詳しく解説されています。また、国内外の専門機関や学会などの見解もまとめてありますので、フッ化物利用について知りたい方はぜひご覧ください。

富岡甘楽歯科医師会のホームページ <http://www.tkda.jp/index.htm>

公益社団法人 富岡甘楽歯科医師会

群馬県富岡市七日市640-1 TEL: 0274-62-1706 E-mail: tkda@tkda.jp

発行日 平成25年3月

一生自分の歯で 食べるために



歯を失う原因の約9割は、むし歯と歯周病です。

一生自分の歯でおいしく食べるためには、むし歯と歯周病の予防が重要になりますが、そのどちらも科学的根拠に基づいた予防対策の実施により、比較的簡単に予防することができる病気です。

むし歯予防のためには、フッ化物利用、特に公衆衛生的な対策の実施が重要です。

また、歯周病予防のためには、適切な歯みがきの励行と、かかりつけ歯科医を持ち定期的に予防管理をしていくことが大切になります。

さらに、口腔の健康増進が医療費の大幅な節約につながるということが各種の調査で認められています。つまり、口腔の健康状況が全身の健康状態に明らかに影

響を与えているということなのです。

歯科口腔保健法の公布・施行(平成23年8月)に基づき、平成24年7月23日付けで「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」が告示されました。これを受けて、都道府県、市町村単位で歯・口腔の健康を推進する条例を制定する動きが全国的に広がっています。

群馬県においても、平成25年3月に条例が制定され、各ライフステージを網羅する生涯を通じた歯科保健対策の実施が求められています。長中期的視点で、歯科疾患の予防と健康格差の解消について効果的な施策を考えてみましょう。

発行 公益社団法人 富岡甘楽歯科医師会



フッ化物利用で 幼児のむし歯が大幅に減少

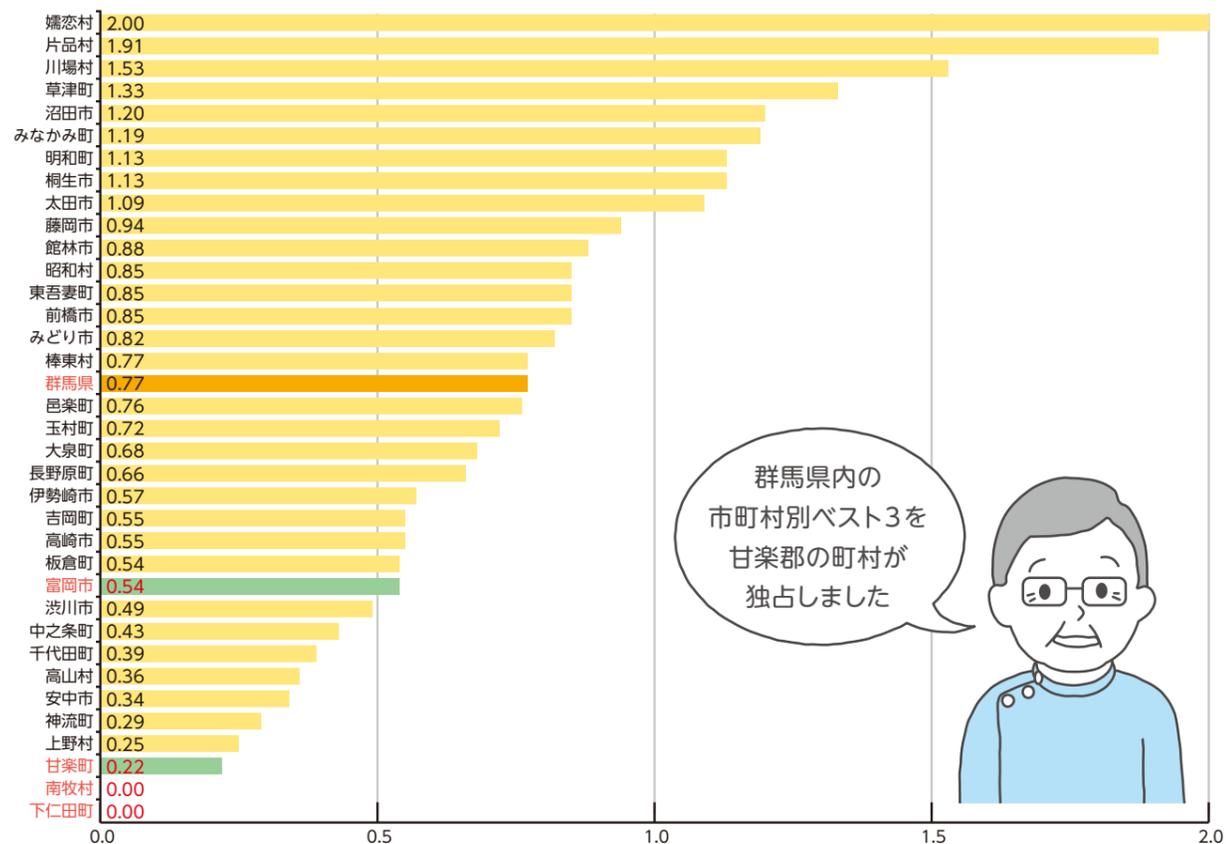
富岡甘楽地区は、約20年前まで乳歯のむし歯が県内で最も多い地域でした。

そこで、富岡甘楽歯科医師会は、市町村と協力して健診と歯科保健指導の回数を増やし、定期的なフッ化物歯面塗布(フッ素塗布)を導入するという対策を行いました。平成5年度までには、管内全市町村の歯科保健事業でフッ化物歯面塗布が実施されるようになり、それにともなって家庭でのフッ化物利用も普及しました。また、富岡甘楽地区の幼稚園・保育園では、フッ化物洗口が実施されるようになりました。

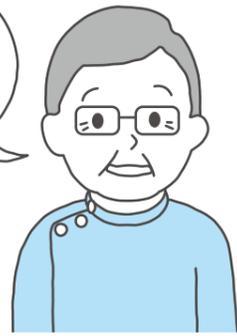
その結果、富岡保健福祉事務所管内の3歳児の1人平均むし歯数が約5本(平成3年度以前)から0.45本(平成23年度)と1/10以下に減少しました。また、むし歯のある児が約80%(平成3年度以前)から15.4%(平成23年度)と1/5以下に減少しました。平成9年度以降は、県内で最も幼児のむし歯が少ない地域になっています。

平成23年度には、対象者の少ない下仁田町(受診者数24人)と南牧村(受診者数6人)では3歳児のむし歯ゼロを達成しました。甘楽町(受診者数88人)の0.22本と合わせて、群馬県内の市町村別ベスト3を甘楽郡の町村が独占しました(グラフ参照)。

群馬県内の市町村別3歳児の「1人平均むし歯数保有本数」の比較



群馬県内の市町村別ベスト3を甘楽郡の町村が独占しました



これからのむし歯予防

日本では、フッ化物洗口、フッ化物配合歯磨剤、フッ化物歯面塗布などが利用されています。しかし、先進国と比較するとフッ化物の利用が遅れているため、砂糖の消費量が少ないにもかかわらず、むし歯が多い状況が続いています。

一生涯を通したむし歯予防対策の確立のために

富岡甘楽歯科医師会は、WHO(世界保健機関)が推奨する最も優れた公衆衛生的なむし歯予防対策であるフロリデーション(水道水フッ化物濃度調整)を普及させたいと考えています。

フロリデーションが実施されれば、子供から高齢者まで、給水地域で生活する住民すべてが、生涯を通じてむし歯予防の恩恵を受けることが可能になり、健康格差の解消にもつながります。

フロリデーションの実施により、むし歯が大幅に減少すれば、国が提唱する8020運動の実現に大きく貢献することになります。さらに、歯が残り咀嚼力が保持されることは、全身的な病気の予防や健康増進にもつながり、将来は医療費の抑制に結びつくことが確かめられています。

富岡甘楽歯科医師会が実施している「フロリデーション(水道水フッ化物濃度調整)についての啓発活動」は、平成19年度から24年度まで6年連続で、公益財団法人8020推進財団から歯科保健活動事業助成交付を受けています。平成22年度の事業は「他者の模範となる事業報告」に選定され、平成24年7月21日に日本歯科医師会館において事業報告しました。

フッ素がむし歯予防に使われるようになった理由

20世紀の前半に、適量のフッ素(フッ化物)が含まれる飲み水を使っている住民に、むし歯が少ないことが分かりました。この事実をもとに1945年から水道水にフッ素を追加して、むし歯予防に適したフッ化物濃度に調整する方法が開始されました。逆に飲み水のフッ化物濃度が高すぎる地域では濃度を下げて調整します。これがフロリデーション(水道水フッ化物濃度調整)です。

フロリデーションがフッ化物利用の原点

むし歯予防のためのフッ化物応用法としては、フロリデーションの歴史が最も古く、米国において1945年から始められ、既に68年になりました。フロリデーションの有効性・安全性が確認される過程で、歯に直接フッ化物を作用させる局所応用(フッ化物歯面塗布、フッ化物洗口、フッ化物配合歯磨剤)の普及も進みました。半世紀以上にわたるフッ化物応用の有効性、安全性に関する研究結果に基づき、専門機関であるWHO(世界保健機関)やFDI(国際歯科連盟)などが、世界各国に利用を推奨し実施を勧告しています。